

# 乙姫城

会長あいさつ

妻木城址の会

〒509-5301

土岐市妻木町3051-1

八幡神社社務所内

TEL0572-57-6441

鵜飼金一

西暦二千年という大きな節目の年を迎えて、皆様方にはよりいっそうご活躍のことと思います。

平成十一年度も妻木城址の会は、着実な活動を展開することが出来ました。これもひとえに会員の皆様を始め、諸先輩の皆様から賜りましたご支援ご協力のお陰によることでありまして、深く感謝申し上げます。

当会は平成七年発足して以来、地道にして手作りの会運営に務め、文化財展をはじめとする種々の普及啓蒙活動を展開してきました。また一方で郷土史の解明調査を続けてまいりましたが、歴史上の妻木一族の動向や、妻木城跡の調査により新しい史実の発見がありました。その成果は機関誌「乙姫城」又は妻木町文化財展で皆様にお知らせしてきました。城址の会の発足の意義は深く、知名度も一段と広がり、関係者から大きく注目されるまでになりました事は、感慨ひとしおなものがあります。

特筆すべきは、平成九年度から四年計画で土岐市教育委員会により実施されました妻木城跡・土屋敷跡の測量

と発掘調査であります。これは当会発足時から期待しお願いしてきたもので、これ程早く実現された市ご当局のご理解と熱意に対して、心から敬意を表すと共に、ご協力いただいた地権者の方々に厚く感謝申し上げます。本年度をもって、基礎調査は一応終了いたしますが、これからは遺跡の保護と活用について真剣に検討してゆかねばなりません。

また本年は、天下分け目の関ヶ原合戦から四百年目にあたります。この合戦に際して東軍徳川方の妻木城主と西軍岩村城主田丸氏が、東濃地方で激しい戦いを繰り広げました。城址の会では四百年の節目にあたり記念事業を予定しております。

今後とも妻木城址の会は、一步一步地道な活動を続けてまいります。皆様の一層のご支援をお願いたします。



西軍岩村城主田丸氏を敗った妻木家頼画像 崇禪寺蔵

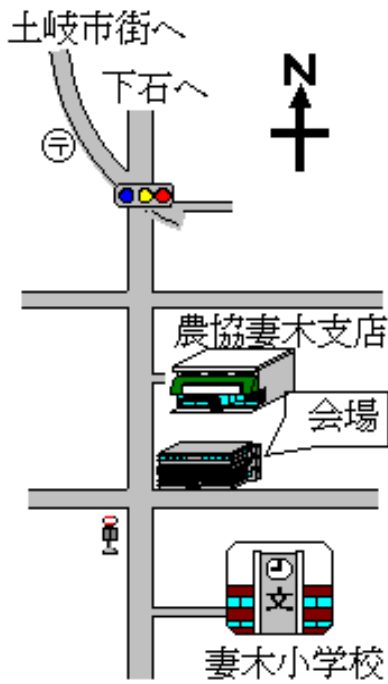
### 定例総会のお知らせ

来る四月二十九日(土)に定例総会及び講演会を行いますので多数の方の出席をお願い致します。

期 日 四月二十九日午後一時三十分より  
会 場 妻木町産業福祉センター三階  
総 会 午後一時三十分より  
講演会 午後二時三十分より

総会は事業報告・決算報告に引き続き、次年度の事業案・予算案の審議をお願いいたします。

多くの会員の皆様の出席をお待ちしています。



### 講演会

## 「妻木城主の一族」

四月二十九日午後二時三十分より  
産業福祉会館三階  
講師 水野幸爾(妻木城址の会事務局)  
全国の妻木一族の研究の成果を紹介します。

会員外の方の入場も歓迎いたしますので、  
お誘い合わせの上お出かけ下さい

平成十一年度事業報告及び平成十二年度事業につきましては、次号に掲載させていただきます。

新年度会費納入のお願い

新年度分の会費納入は次号に同封します振込用紙にて  
お願いいたします。

「妻木城址の会」は会員の皆様の会費によって成り立っています。妻木城の下刈り作業や文化財展の実施などの経費に充てられています。地域住民や妻木城を愛する人の力で貴重な歴史遺産を守り、地域の発展に歴史を生かす運動を成功させたいと思います。ぜひ会員の継続をお願いいたします。

# 妻木城跡 礎石17個見つかる

## 『立派な建物』推測

19日に現地  
説明会

十四世紀から十七世紀に  
かけて、土岐市周辺を治め  
ていた妻木氏の居城・妻木  
城跡＝県指定史跡、土岐市  
妻木町＝で、城山山頂付近  
にあった建物の礎石が十五  
日までに見つかった。これ  
まで城郭の規模など詳細は  
不明だったが、郷土史を研  
究している妻木城址(じよ  
うし)の会では「天守閣に  
代わる大きな建物があり、  
山のみもとから見てかなり  
立派な姿だったのでは」と  
推測している。十九日、現  
地説明会を開き、初公開す  
る。

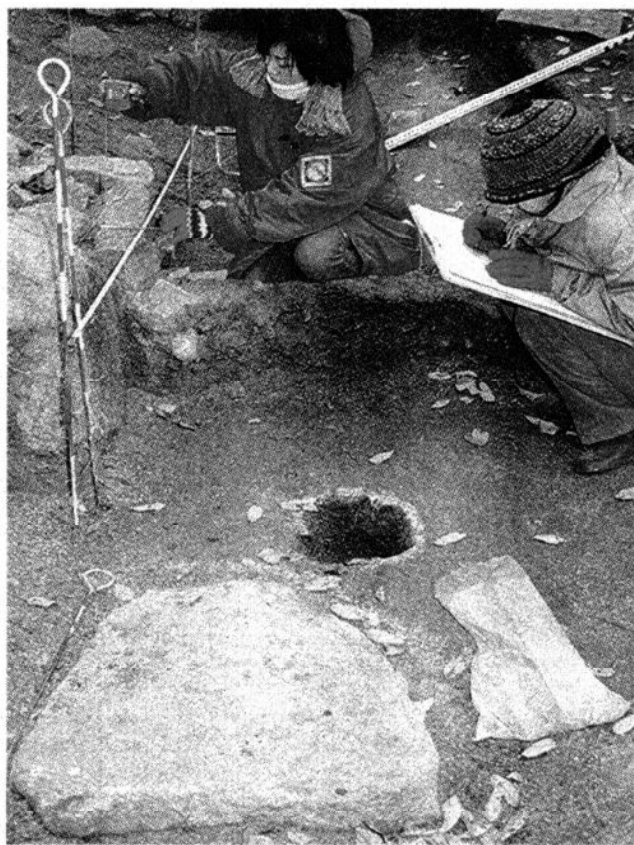
妻木城は十四世紀、美濃

同会では、虎口や礎石の

国守護・土岐頼貞の孫、頼  
重が築城したといわれてい  
る。発掘調査は市埋蔵文化  
財センターが進めており、  
昨年に続いて二年目。礎石  
は、建物の柱の土台となる  
部分で、防御や監視のため  
の曲輪(くるわ)で、計十  
七個見つかった。

約二層の等間隔で一列に  
並んだ礎石が六個、建物の  
入り口となる虎口(こぐ  
ち)の礎石などが、地表か  
ら十一二十センチで確認され  
た。礎石は、直径五十センチ  
ほど、城周辺にはない河原  
石を使っている。

配置の様子などから「建て  
られたのは、天正十一(一  
五八三)年ごろから四十年



400年前の姿を知ろうと、発掘調査が進んでいる妻木城跡＝土岐市妻木町で

ぐらしいの間では」とみてい  
る。織田信長の死後、徳川  
家康に至る天下統一の時期  
だ。妻木氏は関ヶ原の合戦  
(一六〇〇年)で家康側に  
ついており、城が中山道と  
東海道の間位置すること  
から、同会は「当時、国内  
の情勢から見ても重要な拠  
点だったと思われる」と話  
している。

説明会は、午後一時三十  
分から。現地集合で予約は  
不要。問い合わせは、八幡  
神社＝電0572(57) 6  
4411へ。

室町時代から江戸時代初をほしめとする同市西部、期にかけて、土岐市妻木町、多治見市、土岐郡笠原町の

**土岐の妻木城跡**

**礎石や柱穴など  
歴史ファン魅了**

**発掘調査説明会に100人**



調査にあたった職員から説明を聞く歴史ファンら  
11月19日午後2時、土岐市妻木町字本城、妻木城跡

一部を治めていた妻木氏の居城跡を見学する発掘調査説明会が十九日、同町字本城、妻木城跡で開かれた。

妻木城は一三五二（文和元）年ごろ、東濃地方を治めていた土岐頼貞の孫頼重が築城。妻木氏の祖である土岐明智氏の居城といわれる天守閣のない山城。同市教育委員会が四年がかりで調査を行っており、三年目の今年は曲輪（くるわ）から礎石や柱穴が発掘された。同城は少なくとも二度以上改築されたことや改築時期が柱に礎石が使われるようになった室町時代後期から江戸時代の元和年間（一六一五―一六二〇）にかけてと考えられることが分かった。

説明会には、地元住民や歴史ファンら約百人が参加、発掘調査にあたった市職員らが説明した。同町一帯が見渡せる三の曲輪では、多くの食器や火をたいいた跡があったことを報告し、歴史ファンを魅了した。

## 妻木城に大きな建物があつた

本年度の調査で、Ⅱの曲輪入口より門跡の礎石が確認されました。進入路はⅢの曲輪より門をくぐって進入すると直角に左手へ曲がる構造になっています。虎口といわれる部分です。門は東側の礎石が2個確認されました。西側は石積みの崩壊により埋もれていると考えられます。

Ⅱの曲輪では直径50センチ以上ある川原石を使用した礎石が確認されました。西側の建物は大型の礎石が南北に9個、東西に3個ならび、南北15メートル東西4メートルの多間櫓と思われる建物です。東側の建物は全容は明らかになっていませんが、御殿風の建物かと推察されます。妻木城にこれだけの規模の建造物があつたことに驚くとともに、当時の妻木城主の力を再認識させられました。これらの建造物は、関ヶ原の戦い(1600年)をはさんだどちらかの時期に建てられたと考えられます。引き続き平成12年度も調査が行われます。その成果が大いに期待されます。（上は99/12/19付岐阜新聞より、右は99/12/16付中日新聞より）